新年

水島智明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
新年

【Ｎコード】
Ｎ９９２４Ｙ

【作者名】
水島智明

【あらすじ】
特におちのない話をだらだらと。
シリーズ６作目。
とある男の物語。

藤堂正樹は、年末だというのに暖簾の掛かっていない蕎麦屋の前で立ちすくんでいた。
先祖代々と続く蕎麦屋で客に自身の腕を振るう。家業を継ぐことに懸念があったかと聞かれれば、その問いはいささか藤堂にとって無礼極まりないことであった。
家長制の流れを汲む家庭で育った藤堂にとって、父の言葉は絶対であり、詰まる所、因襲的な出自が藤堂の性格を裏付けていったことに他ならない。
早朝から仕込みに入り、品質がベストな状態でしか店を開けないのもそういった側面があった。
情事に耽る群衆が藤堂に対して扇情的に映る。
特にすることが無かった藤堂は、性欲を発散させるために繁華街から一歩離れた所で看板の無いビルの一室に姿を消した。

やけに鼻に付く香水の香りがしみ込んだ布団から立ち上がり隣で眠りこける娼婦の頬に軽くキスをすると、寂れたビルの一室を後にした。
新年を祝う繁華街で一人歩む私を気にする者は、おそらく客商売を生業とする業者くらいのものだろう。
コンビニでインスタントの蕎麦を購入し、木造二階建ての一番奥の自室にいそいそと帰った。
炬燵でぬくぬくしながら年越し蕎麦を堪能する藤堂は、
「虚しく露（汁）打つ（空）新年かな」
と、一人ごちた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9924y/

新年

2011年11月29日23時50分発行